

【クラブ活動報告】

ウクライナ人道支援金を寄付

田辺ロータリークラブ

田辺ロータリークラブ(会長 玉井 洋司)は、ウクライナ人道危機救援金を日本赤十字社に50万円を寄付しました。また、同時に田辺市と上富田町、みなべ町の図書館に図書購入費として、それぞれ、10万円を寄付しました。

同クラブでは、ニコニコ箱の資金をロシアの軍事侵攻を受けて困っているウクライナの人々に役立ててほしいと避難民の救済、医療支援金として、日本赤十字社を通じ、寄付しました。

読売新聞 2022年6月14日(火曜日)

田辺RC ウクライナ支援 日赤県支部通じ50万円



ロシアの侵攻を受けるウクライナを支援しようと、田辺市の田辺ロータリークラブ(玉井洋司会長)は、日本赤十字社県支部田辺市地区長を務める真砂充敏・田辺市長に50万円を託した。ロータリークラブ内の「ニコニコ箱」に集まった会員の浄財から支出した。日赤を通じてウクライナ側に贈られる。

贈呈式は9日、市役所で行われ、玉井会長が真砂市長に救援金を手渡した。玉井会長は「ウクライナ国内のロータリークラブに直接贈りたかったが、戦争が長期化し、確実に手元に届くかわからなくなったため日赤に託すことにした」と話した。真砂市長は「避難民の救援や医療現場の支援に充てたい」と述べた。

真砂市長(右)に救援金を手渡す玉井会長(田辺市役所で)

紀伊民報 6月18日付

ウクライナ人道支援を 田辺ロータリー 日本赤十字社に寄付



ロシアの軍事侵攻が続くウクライナへの人道支援に役立ててほしいと、田辺ロータリークラブ(玉井洋司会長)がこのほど、日本赤十字社のウクライナ人道危機救援金に50万円を寄付した。

玉井会長らが田辺市役所を訪問。「ウクライナの皆さんのために使ってほしい」と話し、日赤県支部田辺市地区長を兼ねる真砂充敏市長に寄付金を託した。ウクライナの避難民の支援活動などに充てられる。

また、市立図書館にも図書購入費として10万円を寄付。同クラブは社会奉仕活動として、1961年から図書館への寄付を続けている。

真砂市長は「次代を担う子どもたちのために、という趣旨にのっとり、有効に活用させていきたい」と感謝した。

同クラブは、上富田町とみなべ町の図書館にもそれぞれ10万円を贈った。

寄付金を手渡す田辺ロータリークラブの玉井洋司 会長(左)
＝田辺市長室で